

平成26年11月26日

水産庁

独立行政法人 水産総合研究センター

平成26年度日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

—別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果—

今後の見通し（平成26年11月～平成27年3月）のポイント

漁況（来遊量）

- さば類（島根県～新潟県）
前年を下回る。
- マアジ（島根県～新潟県）
前年を上回る。
- マイワシ（島根県～新潟県）
前年を下回る。
- ブリ（兵庫県～新潟県）
0歳魚は前年を下回る。
1歳魚は前年を上回る。
2歳魚以上は前年並み。



※「前年」は平成25年11月～平成26年3月を示す。

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 梶脇、影沼澤

電話：03-3502-8111(内線 6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

担当：関根、檜山

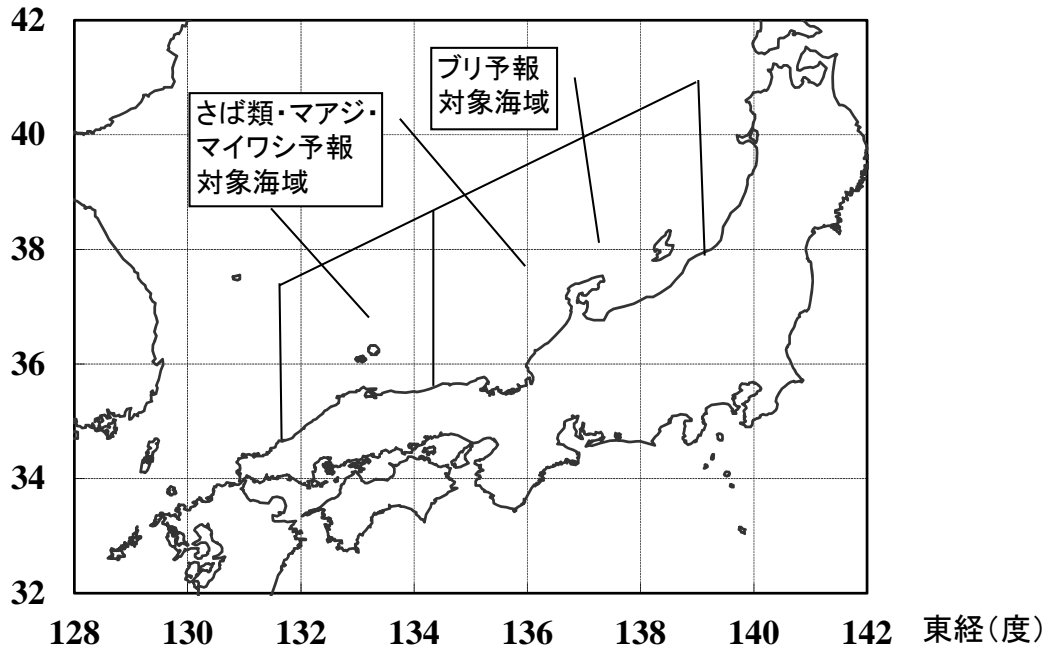
電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

北緯(度)



予報対象海域

日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2014年11月～2015年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）
0歳魚（2014年級）と1歳魚（2013年級）を主体に来遊量は前年を下回る。
2. マアジ（島根県～新潟県）
0歳魚（2014年級）と1歳魚（2013年級）を主体とした漁獲がみられ、来遊量は前年を上回る。
3. マイワシ（島根県～新潟県）
0歳魚（2014年級）を主体に来遊量は前年を下回る。
4. ブリ（兵庫県～新潟県）
各年級の来遊は以下のとおり予想される。
0歳魚（2014年級）：前年を下回る。
1歳魚（2013年級）：前年を上回る。
2歳魚以上（2012年級以上）：前年並み。

※「前年」は2013年11月～2014年3月を示す。

漁況の経過（2014年1月～9月）および今後の見通し

1. さば類（図1、図2）

●2014年1月～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系資源の一部で、その動向は東シナ海域と密接に関わっている。日本海主要港（島根県～新潟県）におけるさば類の漁獲量は、ここ10年間では2008年～2009年をピークに、2010年に減少し、2011年～2012年は増加したが、2013年に減少した。2014年1月～9月における漁獲量は21,100トンで、前年同期（9,900トン）および過去5年平均（12,600トン）を上回った。

府県別では、全体に占める割合が大きい鳥取県および島根県（まき網）の漁獲量は過去5年平均でみると、2月～3月は大きく上回ったが、4月以降下回った。中部以北

におけるまき網（主体は石川県と新潟県）の漁獲量は特に1月に極めて多かった。兵庫県以北の定置網の漁獲量も2月～3月にかけてかなり多かったが、4月以降は過去2年間と同様の漁獲動向であった。

●資源状態と年級の豊度

対馬暖流系マサバ資源の年級毎の豊度について、2012年級は2011年級より低く、2013年級は2012年級より低いとみられる。「平成26年度第1回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」（西海区水産研究所）によると、2014年級は、2013年級程度と考えられている。

●今後の見通しについて

例年、日本海の漁獲量は西部海域のまき網の占める割合が大きく、11月～3月期には0歳と1歳が漁獲の主体となる。0歳魚である2014年級の豊度は前年並み、前年漁獲の主体となった2013年級（1歳魚）と2012年級（2歳魚）の豊度は前年を下回ると考えられる。全体の来遊量は、来遊群の主体となる0・1歳魚の豊度を勘案し前年を下回ると判断される。

2. マアジ（図3～図5）

●2014年1月～9月の経過

2001年～2011年における島根県～新潟県の主要港の水揚げ量は37,400～67,700トンであった。2012年の漁獲量は32,800トンで2001年以降では最も低かったが、2013年の漁獲量は39,100トンで前年より増加した。2014年1月～9月の漁獲量は33,600トンで、前年同期より増加した。月別では5月、6月と9月以外は前年を上回って推移した。

●資源状態と年級の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系資源の一部であり、その動向は対馬暖流系群の資源状態と密接に関わっている。対馬暖流系群における2013年級（1歳魚）の豊度は2012年級（2歳魚）を上回ると考えられる。また、2014年級の評価が難しいが、豊

度が高い 2013 年級を下回ると考えられる（西海区水産研究所「平成 26 年度第 1 回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」より）。

●今後の見通しについて

日本海区水産研究所、鳥取県および島根県が共同で毎年 5 月～7 月に日本海西部海域でマアジの新規加入量調査を行っている。この調査の中層トロールによるマアジ幼魚の採集数と水温分布から求めたマアジの加入量指数（来遊量の多さ）は、来遊量の多かった 2003 年を 1 とすると、2014 年は 3.03 で、前年（2.02）を上回り、2003 年以降では最高であった。対馬暖流系群の 2014 年級の豊度が 2013 年級より低いと評価されているが、新規加入量調査より推定されたマアジ幼魚の加入量指数は、境港におけるまき網 1 ヶ統あたりの 0 歳魚の漁獲尾数と対応関係が見られることを勘案し、日本海西部海域における 0 歳の来遊量は前年を上回ると判断される。

11 月～3 月における日本海の漁獲量は、例年、0 歳魚と 1 歳魚が主体で、2 歳魚以上も漁獲される。予報対象期間における 0 歳魚と 1 歳魚は前年を上回り、2 歳魚は前年並みで、全体の来遊量は前年を上回ると考えられる。

3. マイワシ（図 6、図 7）

●2014 年 1 月～9 月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は 2010 年まで漸増傾向を示していたが、2011 年に急増し 30,000 トンを越えた。2012 年はやや減少したものの、2013 年にはこれまでほとんど漁獲がなかった 2 月に主に隠岐諸島周辺と能登半島以北に来遊し、2 月の漁獲量は急増し 10,000 トンを越え、3 月には 13,000 トンを越えた。10 月以降も漁獲量は、前年を上回った。しかし、2014 年 1 月以降は、5 月に鳥取県、6 月に石川県を中心にそれぞれ漁獲があったものの、極めて低い水準で推移した。

●資源状態と年級の豊度

2013 年級の豊度は 2012 年級を上回り、2014 年級の評価は難しいが、漁況の推移から

2013年級を下回ると考えられる。

●今後の見通しについて

例年、11月～3月期には0歳魚（2014年級）が漁獲の主体となり、1歳魚以上も漁獲される。0歳魚の豊度は前年を下回ると考えられることから、来遊量は前年を下回ると考えられる。

4. ブリ（図8～図10）

●2014年1月～9月の経過

2000年～2010年における兵庫県～新潟県の主要定置網の漁獲量は4,900～8,600トンであったが、2011年は12,100トンとなり、2000年以降では最高となった。2012年は7,700トンに減少したが、2013年は9,900トンに増加した。2014年1月～9月における漁獲量は8,000トンで、前年同期（5,500トン）および過去5年（2009～2013年）平均（5,400トン）を上回った。月別経過では、殆どの月で前年を上回って推移した。

年齢別の漁況経過をみると、1月～9月の0歳魚の漁獲量は1,900トンで、同期間における前年（1,500トン）および過去5年平均（1,300トン）を上回った。1歳魚（2013年級）の漁獲量は4,900トンで、同期間における前年（1,400トン）および過去5年平均（2,200トン）を大きく上回った。2歳以上魚（2012年級以上）の漁獲量は1,200トンで、同期間における前年（2,600トン）および過去5年平均（1,900トン）を下回った。

●資源状態と年級の豊度および今後の見通しについて

2014年級である6月～9月の0歳魚の漁況は前年を下回って推移していることから、0歳魚の来遊量は前年を下回ると考えられる。

1歳魚である2013年級は、0歳時の漁獲尾数および資源量が近年では高水準（「H26年度ブリの資源評価」より）である上、2014年1～9月の漁況経過も好調であることから、来遊量は前年上回ると考えられる。

2歳魚である2012年級および3歳魚である2011年級は、0歳時における資源水準が高いが、高い漁獲量による取り残しの資源状態を勘案し、2歳以上魚（2012年級以上）の来遊量は前年並みと判断される。

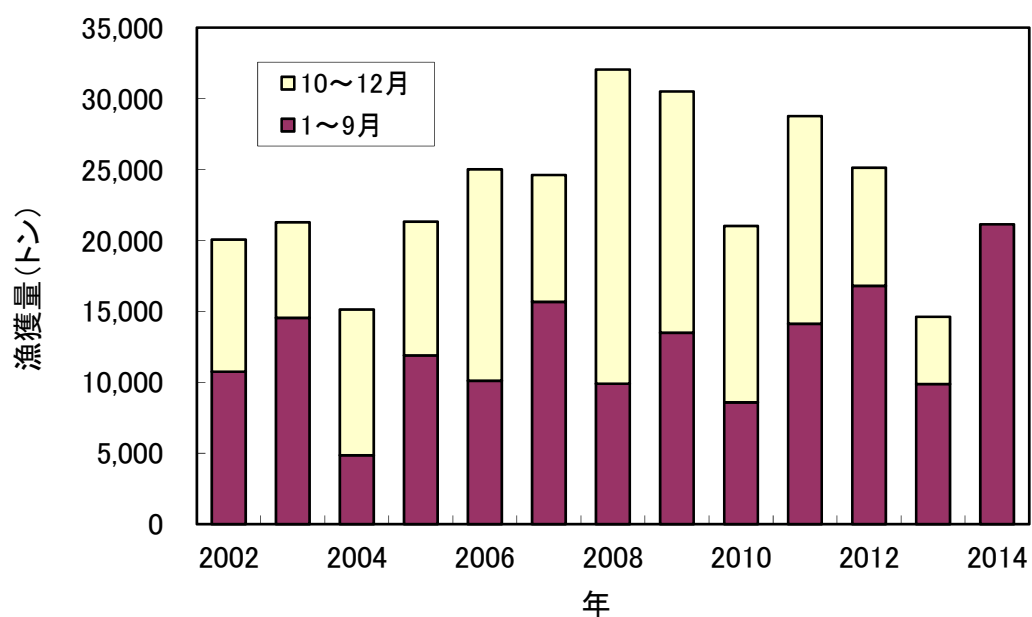


図1 さば類の漁獲量の経年変化

(年計、■は1月～9月まで；島根県～新潟県、2014年は9月まで)

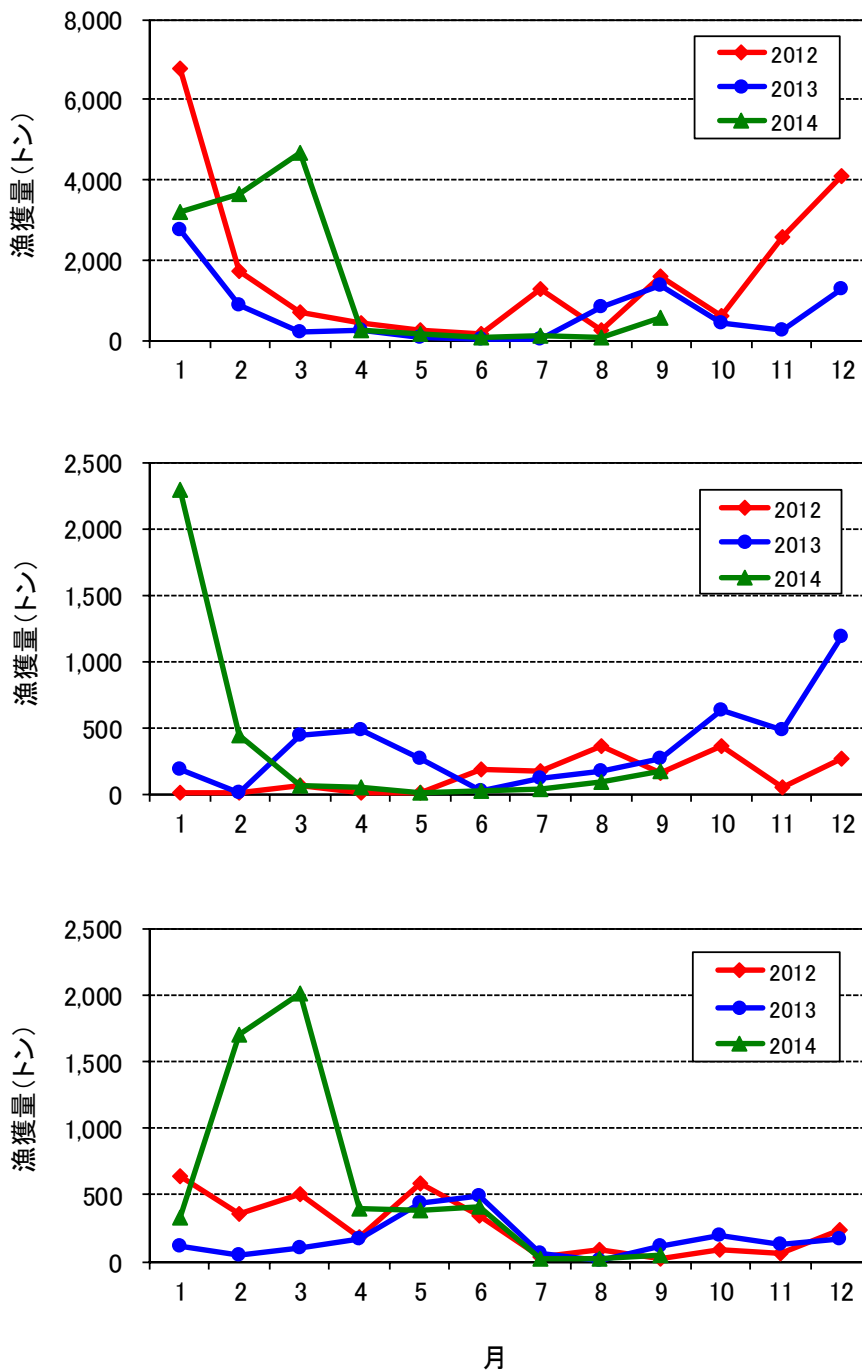


図2 さば類の月別漁獲量の推移（2012年-2014年、2014年は9月まで）

上：島根県～鳥取県（まき網）

中：兵庫県～新潟県（まき網：定置網以外を集計）

下：兵庫県～新潟県（定置網）

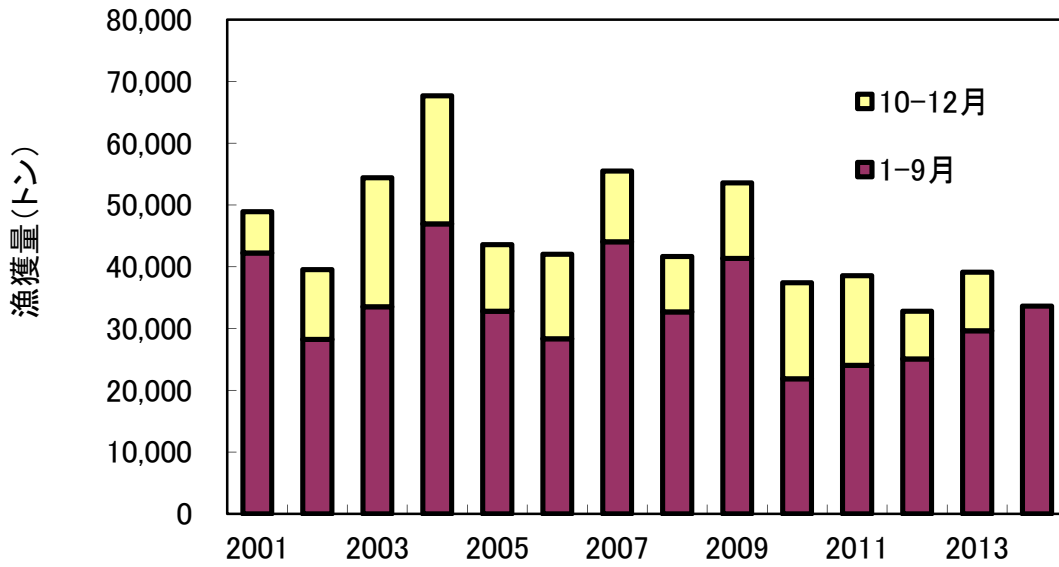


図3 マアジの漁獲量の経年変化

(年計、■は1月～9月まで；島根県～新潟県、2014年は9月まで)

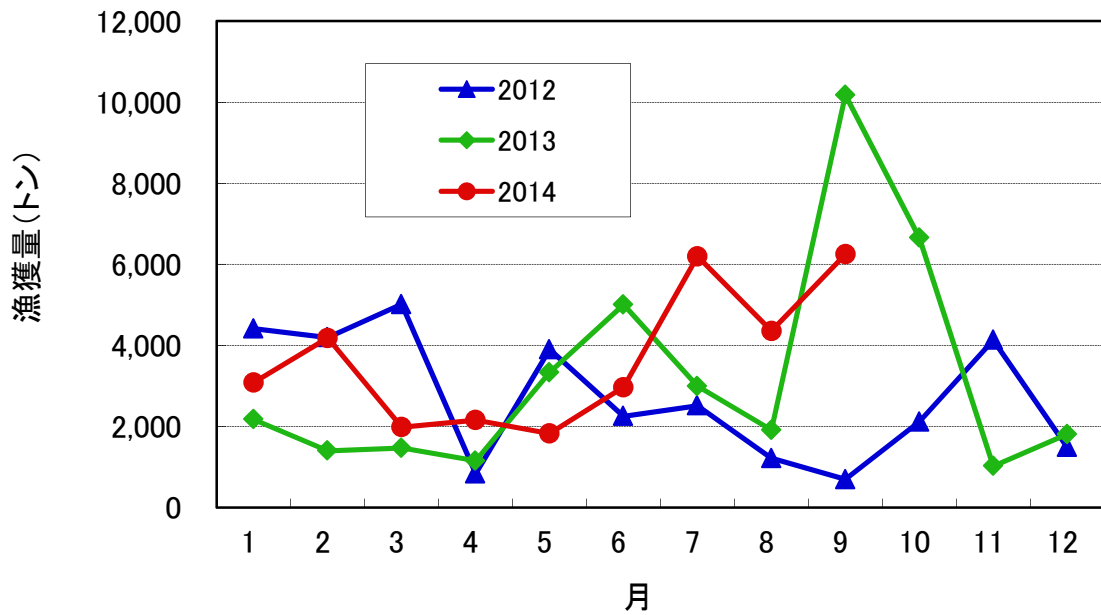


図4 マアジの月別漁獲量の推移（2012年-2014年、2014年は9月まで）

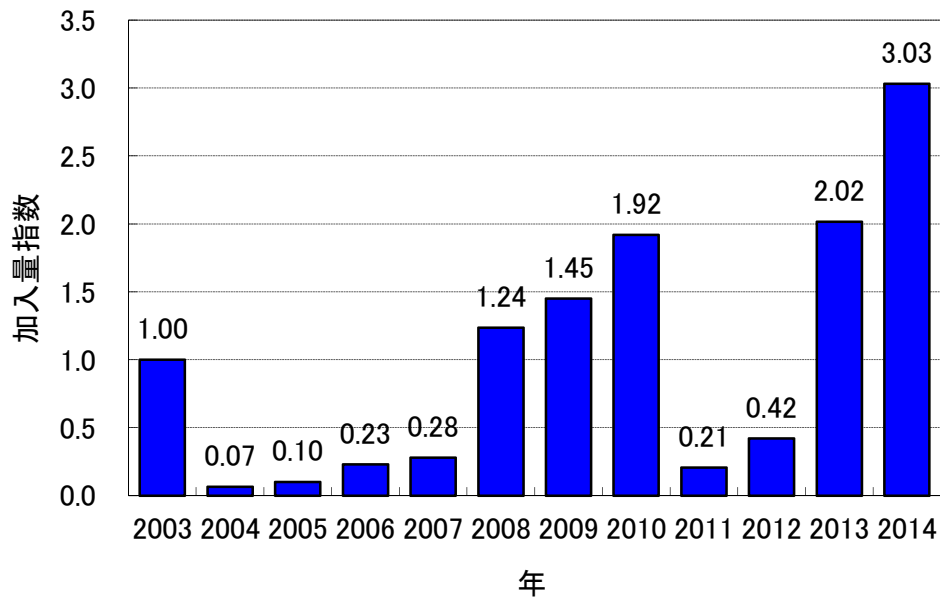


図5 トロール調査によるマアジ幼魚の採集数と水温分布から算出されたマアジ加入量指数の経年変化（2003年を1とした）

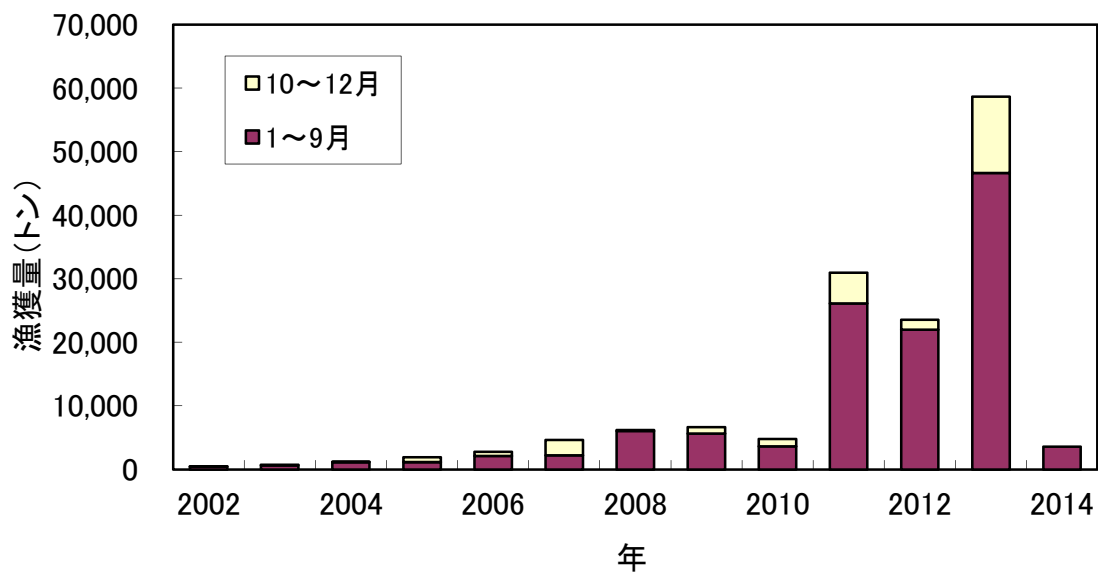


図6 マイワシの漁獲量の経年変化

(年計、■は1月～9月まで；島根県～新潟県、2014年は9月まで)

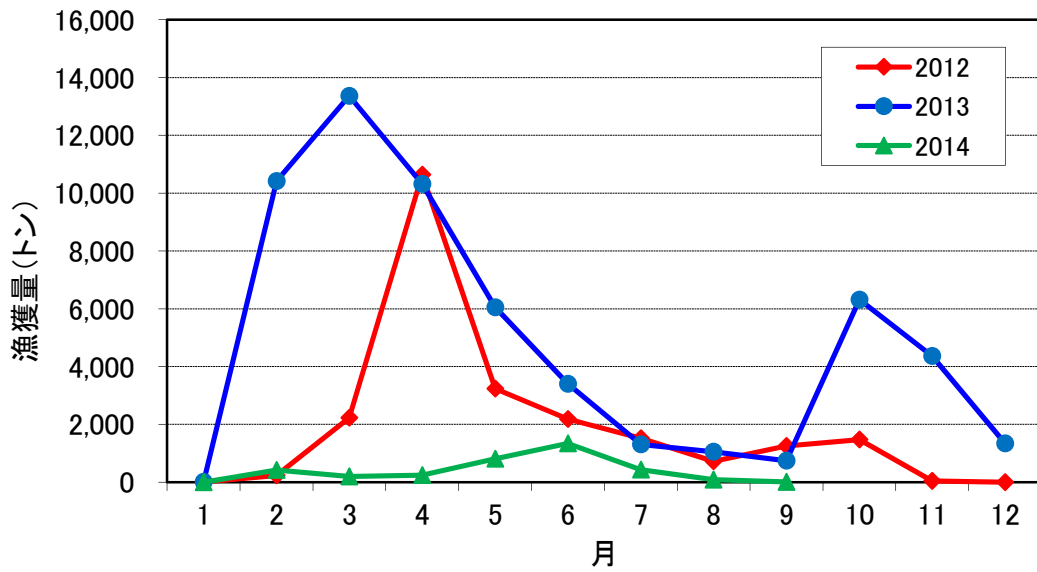


図7 マイワシの月別漁獲量の推移（2012年-2014年、2014年は9月まで）

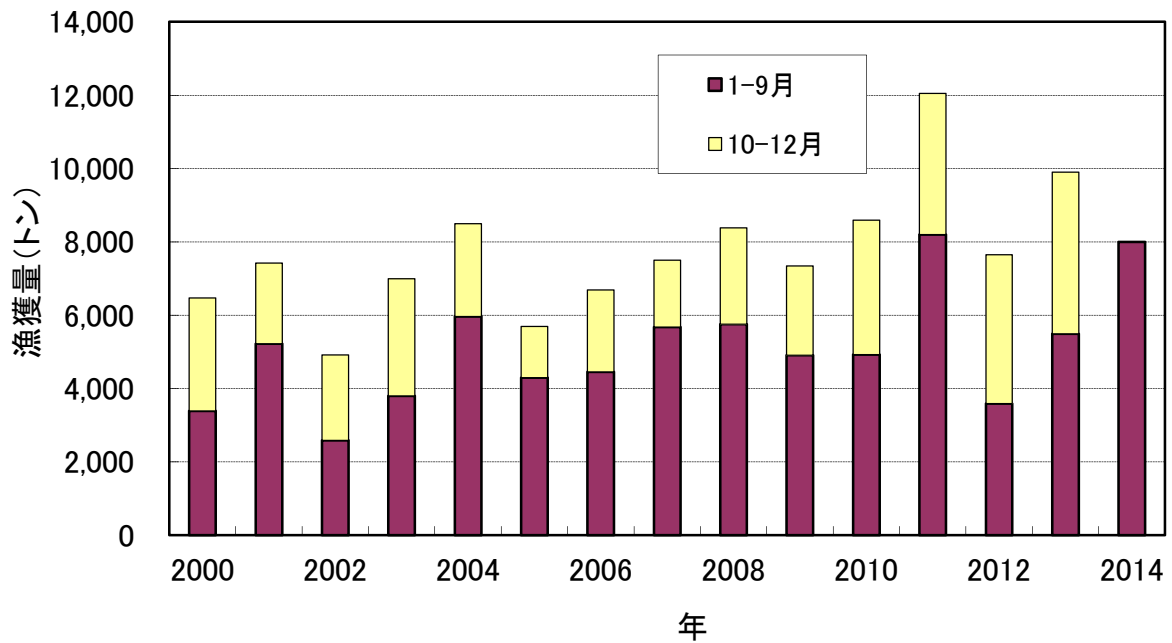


図8 兵庫県～新潟県におけるブリの定置網漁獲量経年変化

（年計、■は1月～9月まで；2014年は9月まで）

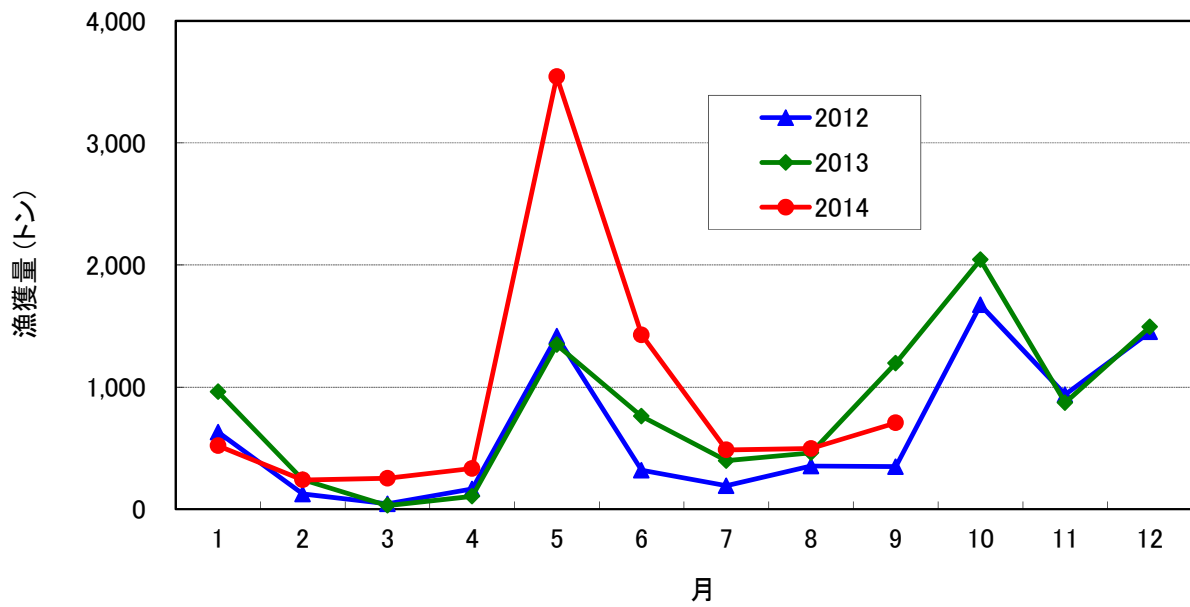


図9 兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量
(2012年-2014年、2014年は9月まで)

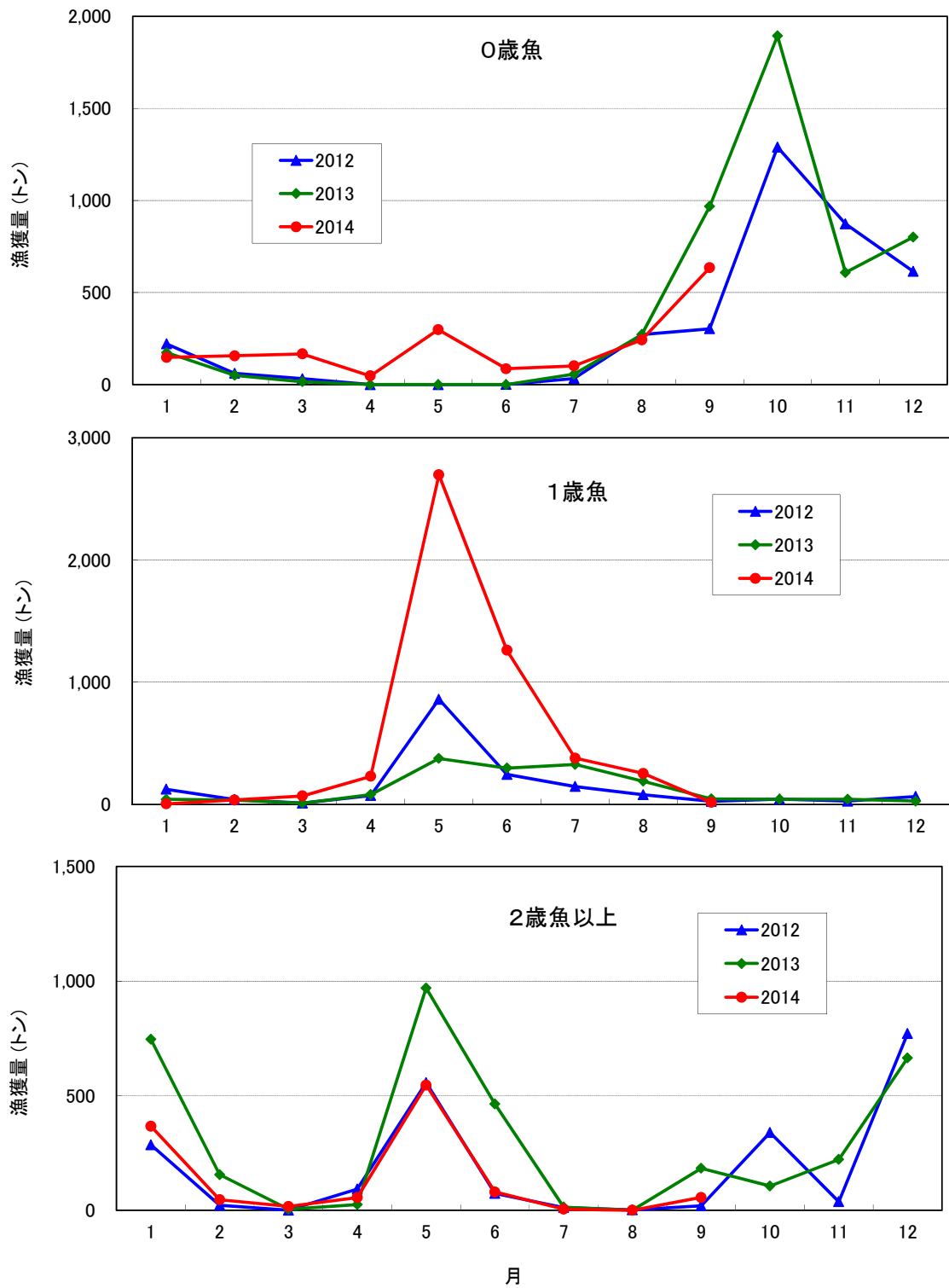


図10 兵庫県～新潟県におけるブリの定置網の年齢別月別漁獲量

(2012年-2014年、2014年は9月まで)

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	独立行政法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所
福井県水産試験場	(取りまとめ機関) 独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所